

令和8年7月21日 藤島木材工業（株）見学
米代東部森林管理署上小阿仁支署

藤島木材工業（株）様のご厚意により、製材工場を見学させていただきました。ご多忙の折、貴重な機会を設けていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

藤島木材工業（株）では、主に岩手県産を中心とした広葉樹を取り扱っており、秋田県産や青森県産、さらには海外産材も活用していました。原木の調達に当たっては、木材市場で必要な材を買い付けるほか、商社を介さず自社で交渉を行い、社長自ら山へ足を運んで原木を確保するなど、安定確保に力を入れてくことが印象的でした。

工場では、「無垢材を安心して使用いただきたい」との考えのもと、品質管理にも工夫が施されていました。広葉樹の原木は地下水を散水しながら保管し、生木に近い状態を維持することで腐朽や虫害を防いでいました。また、製材された木材は家具や学区、フローリング材など比較的小さな部材として利用されることから、原木に多少の曲りがあっても製品への影響が少ないことを学びました。

さらに、乾燥工程では重油を使用せず、製材時に発生するチップや樹皮（バーク）を燃料として活用していました。人工乾燥には約1ヶ月、天然乾燥には約3～6ヶ月を要するとのことであり、品質の確保と木材資源の有効利用を両立していることが分かりました。

今回の見学を通じて、木材がどのように流通・加工され、消費者へ届けられるのかを具体的に学ぶことができました。また、「多少曲った材であっても利用できるため、より多くの原木を供給」との声を伺い、川上と川中でもとめられる視点の違いを実感しました。木材利用への理解が深まり、今後の業務の視野を広げる機会となりました。



写真1：取り扱っている広葉樹



写真2：生木に近い状態を維持（地下水散水）



写真3：乾燥窯の燃料材（バーク）



写真4：多少曲っている材

令和8年7月21日 中国木材(株) 能代工場見学
米代東部森林管理署上小阿仁支署

中国木材(株)様のご厚意により、スギ原木を集成材^{※1}に加工している能代工場を見学させていただきました。ご多忙の折、貴重な機会を設けていただきましたこと、心より感謝申し上げます。

能代工場では、原木のサイズの仕分けから集成材への加工、商品としてのラッピングが機械化されています。2台の選木機(原木スキャナ)に原木を運び込み、レーザとカメラで原木の径級、寸法、曲がり具合、等級等が自動判別され、規格ごとに仕分けされます。選木後は、樹皮剥きや計測、製材等の工程も全て機械によって進行します。これらのことから、高性能な精密機械を積極的に活用しつつ、大量の原木を迅速に加工処理されていました。工場では、能代工場における年間製材量の当初目標である24万m³を上回る成果を挙げることができたそうです。今後も、秋田県ははじめとする東北地方の豊かな森林資源が利用されていくことが期待されます。

国有林野事業として丸太を生産している森林管理署は、川上^{※2}の立場にあります。そして、川中^{※3}から川下^{※4}への木材供給が活発になっています。川上から川中への原木供給を多くすることが、木材利用の推進を図るための第一歩であると考えました。

※1 集成材：複数のひき板を繊維方向が平行になるように集成接着された木材製品（林野庁「森林・林業白書」）

※2 川上：森林という現場において、丸太を生産する立場の者

※3 川中：丸太等の素材を製材品や木質材料に加工する業者

※4 川下：家具・住宅メーカーや工務店などの、製材品や、木質材料を使って製品を製作・販売する業者や消費者



写真1：工場敷地内に貯木された原木と重機



写真2：選木機に原木を運び込む様子



写真3：選木機の管制室



写真4：工場内の加工機稼働の一幕